

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4123
21年2月2日(火)
Tel・Fax 095-828-1953

「人新世の資本論」の 人新世とはなにか？

おはようございます。

立春間際、季節は春ですが？

一月のNHK・Eテレの「二〇〇分得名著」で、マルクスの「資本論」をとりあげました。

講師が斎藤幸平（大阪府立大学准教授、一九八七年生まれの三三歳）さん。四回の番組で講座を聞きましたが、いまいちすつきりしませんでした。しかしです。この斎藤さ

んが書いた「人新世の資本論」はまさに目からうろこの本でした。ぜひ、みなさんにも購読をお勧めします。なにせ一〇〇〇円だから安いかな。

斎藤さんは、皆さんが地球温暖化に配慮し、車をハイブリッド車にしようが、マイボトルにしようが、エコバックを持ち歩こうが、気候変動の危機は回避できない、と語ります。私はこの言葉に衝撃を受けました。

そこでまた、この「人新世」とはなにか？。この言葉の意味が最初わかりませんでした。そこで脱線気味ですが、これを説明します。

皆さんも白亜紀とかの言葉はご存じだと思いますが、いわゆる地質で地球の長い

時代を分ける呼び名です。

ざっというと四六億年前に地球が生まれた当初の冥生代から始まり、太古、原生、古代が続く、次の中生代に白亜紀が登場します。

一億四千万年前です。これがほぼ八千万年もつづきます。この時代は恐竜が跋扈していましたが、惑星（隕石）の地球衝突での環境変化で、全地球生物の大半が絶滅します。もちろん、恐竜も絶滅しました。

そして六千万年前に新生代が始まります。これが現代区分の始まりです。この新生代も三つに分かれ、現在は第四紀とされます。二〇〇万年前ですが、これが人類の世代となります。四十六億年分の二百万年ですからわずかの時間です。

この第四紀も二つに分けられ、現在は一万年前から「完新生」と呼ばれます。

さらに、地質学的には、地層のありようで呼称されてきた時代区分を、人の出現から、「人新世」という呼び名が生まれます。

さらにまた「人新世」の時代もいつからか、という時代区分で、一万年前の農

耕革命からか、あるいは、一九五〇年代の原油をもととした大量生産、大量消費時代からか、とかあるようですが、斎藤は、一八世紀の産業革命からだといいます。

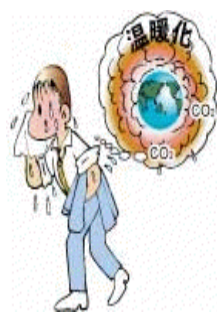
長い前置きでしたが、これが、この「人新世の資本論」の呼び名の背景とされます。要するに四六億年の地球区分の長い歴史においても特筆すべきほどの劇的な変化を、この資本主義が起しているという時代認識です。

無論、一八世紀は資本主義時代の始まりですが、わずか二〇〇年前です。この間の生産と消費の経済体制が、地球の人や物質のすべてを商品化し、利益第一主義の名の企業活動の下、地球の資源を食いつくし、その結果、地球環境の危機を加速させているのです。

これこそまさに資本の力で、人類が作り出した資本が、人の思考を飛び越えて自己肥大化し、人は言うに及ばず、全地球すら飲み込もうとしている異様な姿。その歴史観です。

具体的には、産業革命前の二酸化炭素排出量は二八〇ppmだったものが、二〇一六

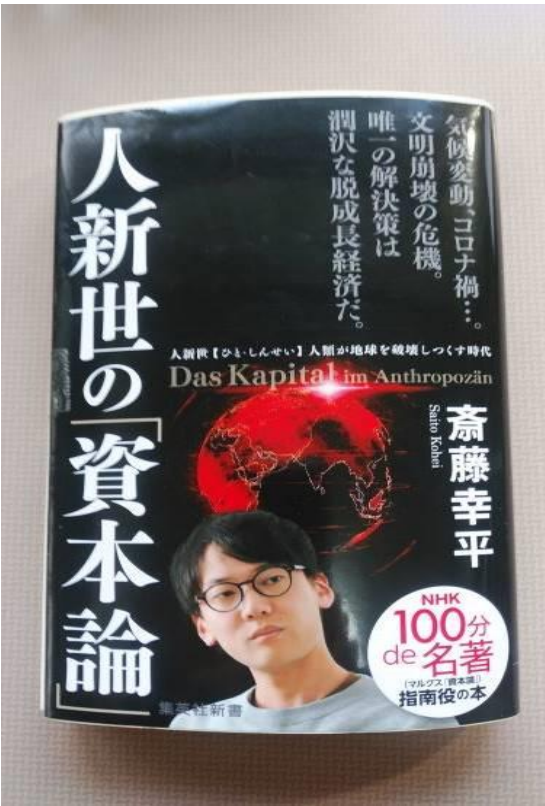
年には四〇〇ppmと増えています。現在の地球の気候変動はこれに起因します。むしろ犯人は資本主義なのだ斎藤は断定します。



国連も各国の政府も大企業もパリ協定（産業革命以前の二%削減）で、持続可能な開発を掲げますが、これでは地球は救えないし、人類も持続可能にはならないのです。

人類も地球も持続不可能な時代に、「金」でも無かるうにですが、資本主義と資本家（一%の富裕層）のあくなき富の独占商品経済と搾取の経済活動は、四六億年の地球や文明を破壊する一歩手前にあるという時代認識に、九九%の多数派の私たちがも立てるでしょうか。

最終的には資本主義を変えなくては、この地球環境の危機を止められないし、変えようというメッセージなのですが、もう一度、テレビの四連続講座を見直して、この本を読んでみたいものです。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の新規採用の正社員化を。

ゆめが、均等賃金、なつこい差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利したんや！

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。